

ありば

「バリア」の逆は「ありば」。
バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、「ありば」というタイトルにしました。
みんなに住みよいまちを、みんなで築くために。
人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介する広報誌、それが「ありば」です。

VOL. 43
2022



表紙 / KAKERU 上山 滉平 (うえやま こうへい) さんの作品

令和3年度県特別支援学校美術展で優秀賞を受賞した鹿児島大学附属特別支援学校に通う上山滉平さん(18歳)。美術教室に5歳から通う上山さんは、「自分の作品を見て喜んでくれる人」を見たことをきっかけに表現することの楽しさを知ったとのこと。絵画や切り絵を得意とし、これまでに多くの賞を受賞しています。作品の表現方法は変わるものの、共通点は大好きな動物を描いていること。本作品は特に好きな「馬」をテーマに、水彩絵の具でレインボーカラーの躍動感のある心温まる作品を描き上げました。4月から社会人になる上山さんは「これからも絵を通して多くの人とつながっていきたい。将来は大好きな馬に関わる仕事をしたい。」と今後の展望についても話してくれました。



CONTENTS

【特集】
障害のある方のスポーツ・文化活動や社会参加等をサポート!
～障害者自立交流センター、視聴覚障害者情報センターをご活用ください～

PAGE 1

ありばヒューマンドキュメント
山口 義明さん

PAGE 3

ありば通信
県手話サークル連絡協議会

PAGE 4

ハードルを越えて
新地 亮平さん

PAGE 5

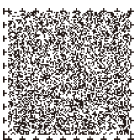
バリアフリー最前線
SSプラザ せんだい
心の輪を広げる
障害者理解促進事業

PAGE 6

鹿児島県からのお知らせ

- ・世界自閉症啓発デー
- ・「手話」を体験してみませんか
～手話講座・手話出前講座の御案内～
- ・ヘルプマーク・ヘルプカードをご存知ですか
- ・鹿児島県身障者用駐車場利用証制度(パーキングパーミット制度)について

PAGE 7



ハートピアかごしま (鹿児島市小野1丁目1番1号)

特集



新村事務局長

ハートピアかごしまは、障害者の自立と社会活動への参加を促進し、難病患者の療養生活の質の向上に資するため、相談、指導、助言、情報提供等とおして障害者や難病患者の保健福祉の増進を図る拠点施設です。

今回は、ハートピアかごしま内にある施設「障害者自立交流センター」と「視聴覚障害者情報センター」について紹介いたします。

両センターは、県身体障害者福祉協会が管理・運営を行っています。協会ではこのほか、ハートピアかごしま内で「ITサポートセンター」、「障害者110番」を設置し、各種相談も受け付けていますので、お気軽に御利用ください。

今後も、より一層のサービス向上に努めてまいりますとともに、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底するなど、利用者が安心・安全に御利用いただけるよう適切な管理・運営に取り組みながら、皆様の御来館・御利用を心よりお待ちしております。

【ITサポートセンター】

障害のある方の自立と社会参加の促進を図るため、ソフトの操作やSNS等のネットに関する事や外部機器との設定等、パソコン操作に関する相談をマンツーマンで応じています。

対象者：身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定疾患医療受給者証、障害福祉サービス受給者証をお持ちの方

相談方法・料金：来所・無料

相談日時：月2回 第1・第3木曜日、13時～17時 1人概ね1時間（要予約制）
※都合により変更する場合があります。

その他：来所が困難な方は、御自宅等での御相談に応じます。（お伺い出来ない場合もあります。）

連絡先：(社福) 鹿児島県身体障害者福祉協会内（ハートピアかごしま3階）
TEL：099-228-6271 FAX：099-228-6710



【障害者110番】

障害者（身体・知的・精神）並びにその家族等の日常生活における不安や悩み（家庭や職場での悩み事や障害に付随する悩み等）に対応するために、常設の相談窓口を設置し、適切な情報提供等の助言を行い、相談内容に応じて必要と思われる関係機関や専門家に協力を依頼します。

受付時間：月曜日～金曜日 9時～17時（土・日・祝祭日、12月29日～1月3日は休み。）

相談方法・料金：来所、電話、メール、FAX等・無料

弁護士相談：法律問題については、弁護士による相談も受け付けています。

弁護士の面接相談（要予約）毎月第3水曜日 14時～16時 初回30分のみ無料

連絡先：(社福) 鹿児島県身体障害者福祉協会内（ハートピアかごしま3階）

TEL・FAX：099-228-6000 メール：soudan110ban@shogaisha-kagoshima.jp

障害者自立交流センター

障害のある方等のスポーツ・レクリエーションや文化活動を支援するための活動の場を提供しています。また、障害者を対象としたスポーツ教室や、文化教室も開催。障害者が優先利用となりますが、健常者の利用も出来るので、県民同士の交流の場として賑わっています。詳しい御利用方法は、HPで御確認ください。

開館時間：9：00～21：00 TEL：099-218-4333

料 金：障害者及び介護者 無料、一般 有料

休 館 日：毎週火曜日（祝日の場合、翌日以降の平日）及び年末年始

体育館

試合・体づくり・レクリエーションなど様々な用途で使用できます。ポッチャやフライングディスク等のニュースポーツの用具も各種揃えており、運動が苦手でな方でも気軽に御利用いただけます。（卓球台8台、バドミントン（ソフトバレー等）4面、バレーボール2面、バスケットボール1面）



温水プール

目の不自由な方用の気泡装置や衝撃吸収板、車椅子での進入スロープも設けており、それぞれの障害やペースに合わせて御利用いただけます。25m、6コースのプールにミニプールを併設しています。

運動療法訓練室 (トレーニング室)

機能回復訓練及び体力維持・向上の訓練のためにエアロバイクやランニングマシン等の機器を設置しています。理学療法士による初回講習会を受け、障害に合わせたトレーニングも可能です。



多目的ホール

座席は、電動収納架いすとなっており、出し入れも簡単。映写設備や舞台装置を設備し、舞台を使用したイベントや会議などはもちろん、椅子の収納時は広く使用できるので、ボディメンテナンス教室などにも使用しています。（電動収納架いす使用時の座席数152席～190席、折りたたみ椅子使用時は約230席）

視聴覚障害者情報センター

視覚部門と聴覚部門に分かれており、視聴覚障害者への情報提供施設として、情報収集・提供をしています。点訳・音声訳ボランティアや手話通訳者や要約記者、視覚・聴覚機能に障害を併せ持つ盲ろう者通訳介助員の養成・研修も行ってまいります。

開館時間：8：30～17：00 TEL：099-220-5896

休 館 日：毎週火曜日（祝日の場合、翌日以降の平日）及び年末年始

ビデオライブラリー室

邦画、ドラマ、アニメなどの字幕入りDVD・ビデオテープを貸し出しています。字幕制作ボランティアの養成講座も情報センターで受講できます。貸し出しは郵送対応が可能です（有料）。また、隔週で豊学校の移動ライブラリーを実施しています。

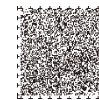
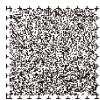


ビデオ制作室

自館制作動画「あいかごしま」を2ヶ月に1度制作し、同センターのホームページにて公開しています。ろう者へ日常生活の話題などを掘り下げた情報（運転に関する事や新型コロナウイルスのワクチンに関する事等）提供や、健常者へろう者に対する理解を深めていただく動画など、手話と字幕でお伝えしています。

書庫貸出室

視覚障害のある方へ、絵本や小説などの様々な本を楽しんでいただくために点字・録音図書を貸し出しをしています（蔵書数約2万5千冊）。訪問の難しい方であれば、郵送対応（無料）も可能です。点字・音声奉仕員養成講習会を開催し、ボランティアの育成を行い、点字・録音図書の製作をしています。図書館内に希望の点字・録音図書がなければ、全国の点字図書館から確認をして、取り寄せることも出来ます。



「障害者自立交流センター」、「視聴覚障害者情報センター」を御活用ください！

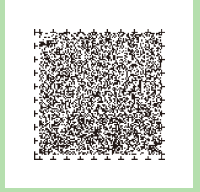




「教室や大会で競技を楽しんだり笑顔でお話しされている光景を見るたびに協会を立ち上げ、活動できることに喜びとやりがいを感じています。」と話す山口会長。

ありが

バ ヒューマン ドキュメント



鹿児島県ボッチャ協会会長

【山口 義明】さん

悔しい時も達成した時も全て
素敵な笑顔で。

「ボッチャ」は東京パラリンピックで日本人が金メダルを獲得し、国内で大きな盛り上がりを見せた今注目のパラスポーツです。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに6球ずつのボールを投げたり転がしたりして、いかにジャックボールに近づけるか頭脳を使う競技。健常者・障害者隔てなく誰でも参加でき、重度障害者のスポーツ競技の参加を可能にしました。「一番の大きな魅力は、駆け引き・戦術を考え、一発逆転が出来るということだと思っています。ミラクルな打球が出ると会場は大きく盛り上がるんです。」と目を輝かせながらお話しされる会長の山口さんは現在、鹿児島市教育委員会に勤務されています。

以前には牧之原養護学校の校長も務められており、障害者の自立と社会参加を常々考えられているとのこと。「障害のある児童が養護学校卒業後、余暇をどう充実させるかということは大きな課題の一つ。引率者ではなく、一市民として障害者スポーツに関わるようになり、改めてその魅力を感じます。社会人として立派に自立している本人だけではなく、保護者や他の参加者と競技を楽しみながら、熱く競っている姿の前に大きな喜びを感じています。」と障害の有無に関係なく素敵な笑顔があふれるパラスポーツの交流の素晴らしさをお話しいただきました。

かごしま大会をサポートします！

県ボッチャ協会の設立に向けて活動が始まったのは、2020年9月。ボッチャが全国障害者スポーツ大会の正式種目となり、2023年のかごしま大会でボッチャの受け入れ体制が必要になったことがきっかけ。「東京パラリンピックの選手の活躍にも大きく感動しました。県障害者スポーツ協会の指導を頂きながら、審判・指導者等の育成や県内のボッチャ普及に励んでいます。また、審判技術向上を図るとともに、ボランティアの育成等にも力を入れています。今年のとちぎ大会を参考に、運営シミュレーションを積み重ねて、全国からの選手や関係者のおもてなしができるように準備していきます。」と来年のかごしま



ボッチャ競技の道具は貸出も行っています。興味がある方は県障害者スポーツ協会までお問い合わせください。

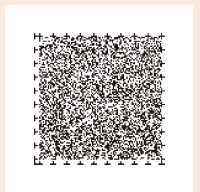
ま大会に向けて始動しています。会員は、会社員や特別支援学校・大学等の職員、障害者スポーツ指導員、学生や主婦など26名で活動中。現在は、毎月第4土曜日にボッチャ教室を開催しています。最後に、鹿児島県のボッチャの展望をお聞きました。「ボッチャは誰でも参加できます。普及拡大へ向け各地で教室を開催し、将来的には全国障害者スポーツ大会やパラリンピックで活躍できる選手の育成に、県ボッチャ協会として関わることが大きな望みです。」現在、注目の集まるパラスポーツ。選手の活躍に今後も目が離せません。

鹿児島県ボッチャ協会
(鹿児島県障害者自立交流センター内)

〒890-0021 鹿児島市小野1丁目1-1 ハートピアかごしま3階

TEL: 099-218-4333 FAX: 099-220-5420

E-mail: heartsiyougai@heartspiakagoshima.jp



「ろう者と地域をつなぐ架け橋」誰もが安心して暮らせる社会を手話で支える

鹿児島県手話サークル連絡協議会（以下、県手連）は、県内各地で活動している手話サークルの交流と他県の手話サークルとの連携等を図るため、昭和55年に発足しました。現在、県内の手話サークル10団体で構成されています。各サークルの会員数は15名から100名程度で、学生や主婦、教師、定年を迎えられた方等多様で幅広い年齢層の会員が定期的に例会を開いて、ろう者への理解や手話について学んでいます。県手連の濱川千鶴子会長は、「サークルは健聴者のみで構成されている団体ですが、手話を学ぶだけでは会話は成立しないため、聴覚障害があり、手話で会話されるろう者と一緒に活動しています。手話を通してろう者と関わり、ろう文化やろう者への理解を深め、支え合える関係を作っていくことが大切です。その人材育成を担うのが地域のサークルであり、県手連は、地域のサークルとの連携を密にし、ろう者とともに誰もが安心して暮らせる社会を手話を通して支援していきたいです。」と話します。



県手話サークル連絡協議会



サークル活動では、ろう者との会話を楽しむのももちろん、手話通訳の練習も行っています。



「手話の普及やろう者を取り巻く環境をさらによいものにしていきたい。」と今後の活動を前向きに話す濱川会長。



鹿屋市の手話サークル「やまびこ」は、毎週水曜日に活動中。各サークルへの入会に関する相談は、県手連までお気軽にお問合せください。

最近では知事の記者会見等で手話通訳を目にし、興味をもつ方も多いとのこと。「手話に興味を持ったら、手話講座や市町村の手話奉仕員養成講座等であいさつ等の基本的な手話を学んでいただき、それを実践するために県手連の地域サークルへ入会されることをお勧めします。」と手話を学ぶ方法を提案します。

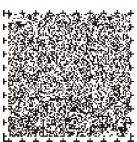
また、サークルでは手話を学ぶだけでなく、地域のろう者へのサポート活動も行っています。いちき串木野市のサークル「ひまわり」の井手迫なみ子代表は、「ろう者は災害や病気・ケガの際はFAXで通報します。ただ、いざという時に使用出来ない可能性もあります。そこで年に一回ろう者のご自宅に会員が訪問し、消防署と連携をとりながら、通信のテストを行っています。その他にも災害などの情報をSNSで共有するなど、地域との繋がりを大切にしていきます。」と地域社会に積極的に関わる取組を紹介しています。

かごしま県民手話言語条例が施行されて2年。「コロナ禍のため、県手連と各サークルの活動に制約を受けているものの、県民が手話に触れる機会は増えていると感じています。会員の中には『手話通訳者・士』として活動している者もいます。手話の普及と共に、ろう者への情報保障についての理解が広まるよう働きかけていきたいです。令和5年の『燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会』には、多くの会員が情報支援ボランティアとして参加します。」と濱川会長。手話を通じてろう者と地域をつなぐ架け橋として、更なる活躍が期待されます。

鹿児島県手話サークル連絡協議会
（一社）鹿児島県聴覚障害者協会

〒890-0021
鹿児島市小野 1-1-1 ハートピア鹿児島 3階
TEL：099-228-2016 FAX：099-228-6357

活動については、（一社）鹿児島県聴覚障害者協会のHPをご確認ください。





リレーエッセイ

ハードルを越えて

39

志布志市社会福祉協議会 **新地 亮平さん**
(志布志市)

現在、志布志市社会福祉協議会に勤めており、総務課での仕事を日々行っています。私は高校3年生の時、交通事故で車椅子生活となりました。車椅子の私を受け入れていただいた社協の皆様には大変感謝しています。

事故当初を振り返ると「車椅子では何もできない」と思い込んでいました。やはり事故前に出来ていた簡単なことが出来なくなりましたからね。そんな時、車椅子の先輩方が病院のリハビリで真剣に車椅子陸上の練習に取り組んでいるのを見て、車椅子陸上に興味を持ちました。実際に大分国際車いすマラソンを現地で観戦した時には感動しました。プロの走りは圧巻で「自分もあんなふうになりたい」と思いました。そこで何事も自分次第だと気付けたんです。出来る出来ないは置いておいて、自分で挑戦して一步を踏み出さないと何も始まりませんからね。やって駄目なら仕方ないでしょうが、「やらないで何も生まれないよりはマシだ！」と。最初から出来ることは何もありませんから、“何事もマイペースで自分らしく！” そう思い今も競技に励んでいます。

2019年に初めて全国障害者スポーツ大会の県代表に選出されましたが、台風や新型コロナウイルスの影響でまだ一度も大会に参加出来ていません。現在の目標として大分国際車いすマラソン大会のハーフマラソンの部で、1時間の壁を破ることを目指しています。また、2023年開催予定の全国障害者スポーツ大会は地元鹿児島で開催となりますので自分の頑張りを表現できる最高の舞台だと思っています。精一杯準備し、本番に挑みたいですね。いつも支えてくれている家族をはじめ、友人や仕事仲間にも見てもらえたら嬉しいです。

最近では東京パラリンピックがきっかけで、パラスポーツに興味を持っていただく機会が増えたと感じています。いつもの車椅子と競技用車椅子では全く見る景色が変わります。少しでも興味をもっただけなら、障害のある人もない人も体験会などに参加していただき、日常と違った風景を見て感じ取っていただきたいです。



この日は競技用車いす体験教室の講師をされていた新地さん。普段は大隅アスリートトレーニングセンターなどで練習をしているそうです。



通常の車椅子と比べると競技用車椅子は長さが長く、出せるスピードが違います。軽量化されており、片手で持つこともできます。



特定非営利活動法人 **障害児フォーラムかごしま**

広告

生活支援センター

生活支援センター



えがお

谷山中央

〒891-0141 鹿児島市谷山中央8丁目23番15号
TEL-FAX (099) 204-0415
✉ kagoshima_egao@yahoo.co.jp

えがおII

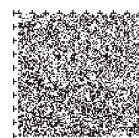
桜ヶ丘

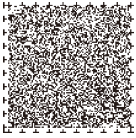
〒891-0175 鹿児島市桜ヶ丘5丁目16番地9
TEL-FAX (099) 265-8805
✉ kagoshima_egao2@yahoo.co.jp

重症心身障がい児施設

生活支援センターえがお

検索





鹿児島島のいろいろな建物や施設、
あるいは人の心の中にあるバリアを取り払われています。
一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

KAGOSHIMA

バリアフリー最前線

Barrier Free-Saizensen



多目的ホールは車椅子席を設けることも可能



南入口から総合案内まで点字案内があり、主要場所にも点字を配置



授乳室・おむつ替えコーナーを完備したバリアフリートイレ

●「SSプラザせんだい」は、様々な交流と活動を生み出す交流拠点として令和3年1月にオープンしました。多目的ホールと11室の会議室、市民交流スペース、多目的室などがあり、様々な人が集まり活動しやすい場となっています。メインとなる多目的ホールは、最大千人の入場が可能で講演会や展示会、商談会、コンサートなど様々なイベントに対応しています。九州新幹線、鹿児島本線の川内駅に隣接しており、移動が難しい方も気軽に利用することが出来ます。施設は三階建てとなっており、車椅子の貸し出しはもとより、行き先を音声

案内するオートアナウンス付きエレベーターや、各階にバリアフリートイレが整備され、障害のある方でも安心して館内を利用できます。また、一階には子どものプレイスペースや授乳室等が設けられており、親子で安心して訪れることができます。さらに周辺は、「川内駅コンベンションパーク」としてSSプラザせんだいを中心にホテル、レストラン、商業施設も一体的に整備されており、障害の有無にかかわらず、待ち合わせやくつろぎの場として、人々が憩い、快適に過ごせる空間になっています。

**SSプラザ
せんだい**
(川内駅コンベンションセンター)
(薩摩川内市)

薩摩川内市平佐 1 丁目 18
TEL 0996-27-8455
開館時間 9:00 ~ 22:00
休館日 毎月第 3 月曜日
(祝日の場合は翌日)



～心の輪を広げる体験作文～

○鹿児島県最優秀賞／小学生部門

作品名「うれしいと思ってもらえるように」
鹿児島市立谷山小学校 5年 前田 桃花 (まえだ ももか) さん



○鹿児島県最優秀賞／中学生部門

作品名「小さな姉の笑顔」
指宿市立北指宿中学校 1年 板木 光輝 (いたき こうき) さん



○内閣府最優秀賞 (内閣総理大臣賞)／高校生区分 鹿児島県最優秀賞／高校生・一般部門

作品名「チャレンジド」
鹿児島県立鹿児島工業高等学校 2年 久保 天清 (くぼ てんしん) さん



※ 受賞者の写真は、上 2 枚は「令和 3 年度鹿児島県障害者保健福祉大会」体験発表時のもの、
下 1 枚は内閣府の「令和 3 年度障害者週間関係表彰式」授賞時のものです。

令和 3 年度公募結果

障害の有無にかかわらず、誰もが地域や職場・学校などで共に支え合って暮らす共生社会の実現を目指し、障害のある人に対する理解促進を図るための「心の輪を広げる体験作文」と「障害者週間のポスター」を、内閣府並びに都道府県及び指定都市の共催で、毎年度公募しています。
【問合せ先】 鹿児島県くらし保健福祉部障害者支援室
TEL: 099-1286-12746

心の輪を広げる 障害者理解促進事業

～障害者週間のポスター～

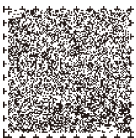
○鹿児島県最優秀賞／小学生部門

作品名「じいちゃんの三味線」
日置市立伊集院小学校 6年 柳 明仁 (やなぎ あきと) さん

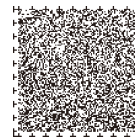


○鹿児島県最優秀賞／中学生部門

作品名「車いすの女の子」
伊佐市立大口中央中学校 1年 久保 紫音 (くぼ しおん) さん



鹿児島県からのお知らせ



毎年4月2日は「世界自閉症啓発デー」、4月2日～8日は「発達障害啓発週間」です

- 自閉症をはじめとする発達障害の方は、他人の意図や感情を直感的に理解したり、言葉を適切に使うことなどが苦手な場合があります。学校や職場でさまざまな問題や困難に直面することがあります。
- これらは、親のしつけや家庭環境が原因ではなく、脳機能の発達に関係するものです。
- 発達障害は、見た目には障害があることがわかりにくいいため、行動や態度が誤解されることがあります。
- 発達障害の特徴を知り、正しく理解していただくことが大切です。

※詳しくは、県ホームページをご覧ください。

問い合わせ先：県庁障害福祉課 TEL (099) 286-2744 FAX (099) 286-5558

「手話」を体験してみませんか～手話講座・手話出前講座の御案内～

県では、聴覚障害を理解していただき、手話の普及を図るため、県民向けの手話講座と県内の事業者や団体等が行う研修等へ講師派遣を行う手話出前講座を開催しています。講座では、あいさつ等の簡単な日常会話を実際に体験していただきながら楽しく学ぶことができます。お気軽に御参加ください。詳しくはホームページをご覧ください。

出前講座（講師派遣）を希望される場合、下記までお問い合わせください。

県ホームページ>健康・福祉>障害者福祉>かごしま県民手話言語条例が施行されました>手話講座
一般社団法人鹿児島県聴覚障害者協会 TEL (099) 228-2016 FAX (099) 228-6357

ヘルプマーク・ヘルプカードをご存知ですか

県では、義足を使用している方や、内部障害、難病の方など、外見から援助等が必要なことが分からない方々を対象に、「ストラップ型のヘルプマーク」、「ヘルプカード」を配布しています。

ヘルプマーク・ヘルプカードを持っている方がお困りのようであれば、「どうしましたか?」、「何かお困りですか?」と声をかけていただき、できる範囲での手助けをお願いします。

ヘルプマーク・ヘルプカードの配布は、お住まいの市町村、県庁障害者支援室、地域振興局・支庁、ハートピアかごしまにて行っています。また、郵送での配布も行っております。詳しくは県ホームページをご覧ください。か、県庁障害者支援室までお問い合わせください。



県庁障害福祉課障害者支援室地域生活支援係 TEL (099) 286-2746 FAX (099) 286-5558

鹿児島県身障者用駐車場利用証制度（パーキングパーミット制度）について

右の表示のある身障者用駐車場は、県の発行した利用証（基準に該当する方に交付されます。）がないと使用することができません。

車の乗り降りのためにドアを全開にしなければならない方、歩行困難によりできるだけ建物に近い位置に駐車が必要としている方など、この駐車スペースを必要としている方が利用できるよう鹿児島県身障者用駐車場利用証制度への協力・理解をお願いします。

本制度の対象となる方で利用証をお持ちでない方は最寄りの窓口（県庁障害者支援室、地域振興局・支庁・事務所、ハートピアかごしま）で申請くださるようお願いいたします。詳しくは県ホームページをご覧ください。



県庁障害福祉課障害者支援室地域生活支援係 TEL (099) 286-2746 FAX (099) 286-5558



[感想をお寄せください]

鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課障害者支援室

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

TEL.099-286-2111(内線2746) FAX. 099-286-5558

Vol.43 令和4年3月31日発行

[E-mail]shougai@pref.kagoshima.lg.jp

[URL]http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/syogai-syakai/machi/index.html

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へ御連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視覚障害者情報センター(鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアかごしま3F TEL.099-220-5896)に備え付けてあります。

[SPコード]について

ページの隅に置かれている、四角い黒い点々を[SPコード](音声コード)といいます。この18ミリ四方の一つのSPコードの中に、日本語で約800字のテキスト情報を格納することができ、専用の読み取り機でSPコードを読み込むと、そのページの内容を音声で読み上げることができます。なお、視覚に障害のある方にもSPコードの位置が分かるように、ページの縁に切り込みを入れています。



白黒配合率100%再生紙を使用しています

